

企画展

未完の女性哲学者

—西田幾多郎の姪、高橋ふみ—

平成 29 年 3 月 28 日 (火) - 10 月 9 日 (月・祝)

知識は女性の将来の天性をそこなうものではなく、かえって豊かにし、深くするものであることは例をあぐるにいとまないほどであります。欠くる所なき女性は知識的に磨かれることによって、一層その輝きを加へるといふことが出来ましょう。

(ラジオ講演「女子教育における知識の問題について」一九三六年一月六日)



■ギュンタールスタール（フライブルク）の下宿の夫人と



■ベルリン日本人学校の授業風景



■東北帝国大学哲学会主催の送別会（中央が留学直前のふみ）



高橋ふみ Fumi Takahashi

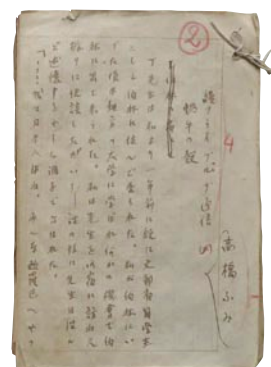
明治 34 (1901) 年—昭和 20 (1945) 年

石川県かほく市木津出身。母は哲学者・西田幾多郎の妹（すみ）。石川県立第一高等女学校、東京女子大学哲学科を卒業後、東北帝国大学法文学科へ入学。石川県女性として初の学士となります。宮城県立女子師範学校、自由学園などで教師を務めたのち、ドイツへ留学。ベルリン大学在学時には時事通信特派員としてベルリンオリンピックの取材も行いました。フライブルク大学ではハイデッガーの演習に参加。伯父・西田幾多郎の哲学論文を独訳するなどしますが、戦争と病のため帰国。ふるさとで療養し幾多郎の死の直後に 43 才の若さで亡くなりました。



■西田幾多郎論文の高橋ふみドイツ語訳「形而上学的立場から見た東西古代の文化形態」

Die morgenländischen und abendländischen Kulturformen in alter Zeit vom metaphysischen Standpunkte aus gesehen



■高橋ふみ「続フライブルク通信」原稿



ウラ面

■西谷啓治から西田幾多郎へ、フライブルクでのふみの様子を知らせる葉書

